

電力技術研究会顧問会を開催

去る平成12年4月13日（木）に、名古屋市内にて電力技術研究会顧問会を開催した。

電力技術研究会は、昭和34年に発足し、新しい内外の電力技術とその応用に関する現状の把握ならびに電力施設の環境保全、公害駆除などの諸問題の調査・研究などを行い、電力技術発展の寄与を目的とするもので、東海地区の大学・高専、電気事業に関連を有する企業、および当社関係者からなる産学協

同の研究の場として、9専門部会および顧問会、委員会、幹事会で構成されている。

当日は、顧問会に先立ち、碧南火力発電所でタービン発電機、石炭灰固化物製造プラント等の見学を行った。

午後からの顧問会では、当社から研究推進状況の報告がなされ、顧問からも多くの提案、助言をいただき、熱心な議論が繰り広げられた。



写真左前列より宮地、宮野、坂本、岩田、福地、松島、市川、吉田、山本、武藤の各顧問



当社開発機器「高効率ローレンツサイクルヒートポンプ」で日本機械学会賞受賞

電気利用技術研究所エネルギー効率利用G空調・熱供給チームの渡邊激雄研究主査と櫻場一郎研究副主査が、高効率ローレンツサイクルヒートポンプの開発により、このたび1999年度日本機械学会賞（技術）を受賞した。この賞を受賞するのは今回で9年ぶり3回目となるが、当社が主体となって受賞するのは初めてのことで

今回開発された高効率ローレンツサイクルヒートポンプは、オゾン層破壊防止のため塩素を含まないHFC冷媒を使用して冷水や温水を供給する設備であり、大型ビルの空調や工場のプロセス冷却に用いられる。従来機よりエネルギー効率を50%高め、地球温暖化抑制に貢献できる画期的なシステムであり、ウルトラハイエフ（超高効率、Ultra High Efficiencyの意味）という商品名で、神戸製鋼所から販売され

ている。

ローレンツサイクルヒートポンプでは、使用する非共沸混合冷媒の伝熱性能向上が大きな技術課題であったが、新開発高性能プレート式熱交換器の採用、補助熱交換器による冷媒サイクル上の改良などにより解決し、今回の受賞ではこれらの点が高く評価された。



渡邊激雄研究主査(左)と櫻場一郎研究副主査(右)



ウルトラハイエフ